

交流・防災拠点施設 「トリーデなると」

研修報告



「トリーデなると」 位置



鳴門市について

四国東北端に位置し、渦潮で有名な鳴門海峡を隔てて淡路島と対峙

大鳴門橋開通により四国の玄関都市となる



面積 135.66 km²
東西 19.25 km
南北 13.52 km

人口 58,543人
26,422世帯
(H30年1月末現在)



「第九」 アジア初演の地

第一次世界大戦中、鳴門市の「坂東俘虜収容所」に送られた、ドイツ兵捕虜約千人と地元の人々の交流があり、1918年6月にアジアで初めてヴェーバーの「第九」が演奏された。2018年の今年は、初演100周年となる。



- 広域観光誘致事業を展開
- 農水産物の供給基地
(サツマイモ、ワカメ、鯛)



トリーデなると

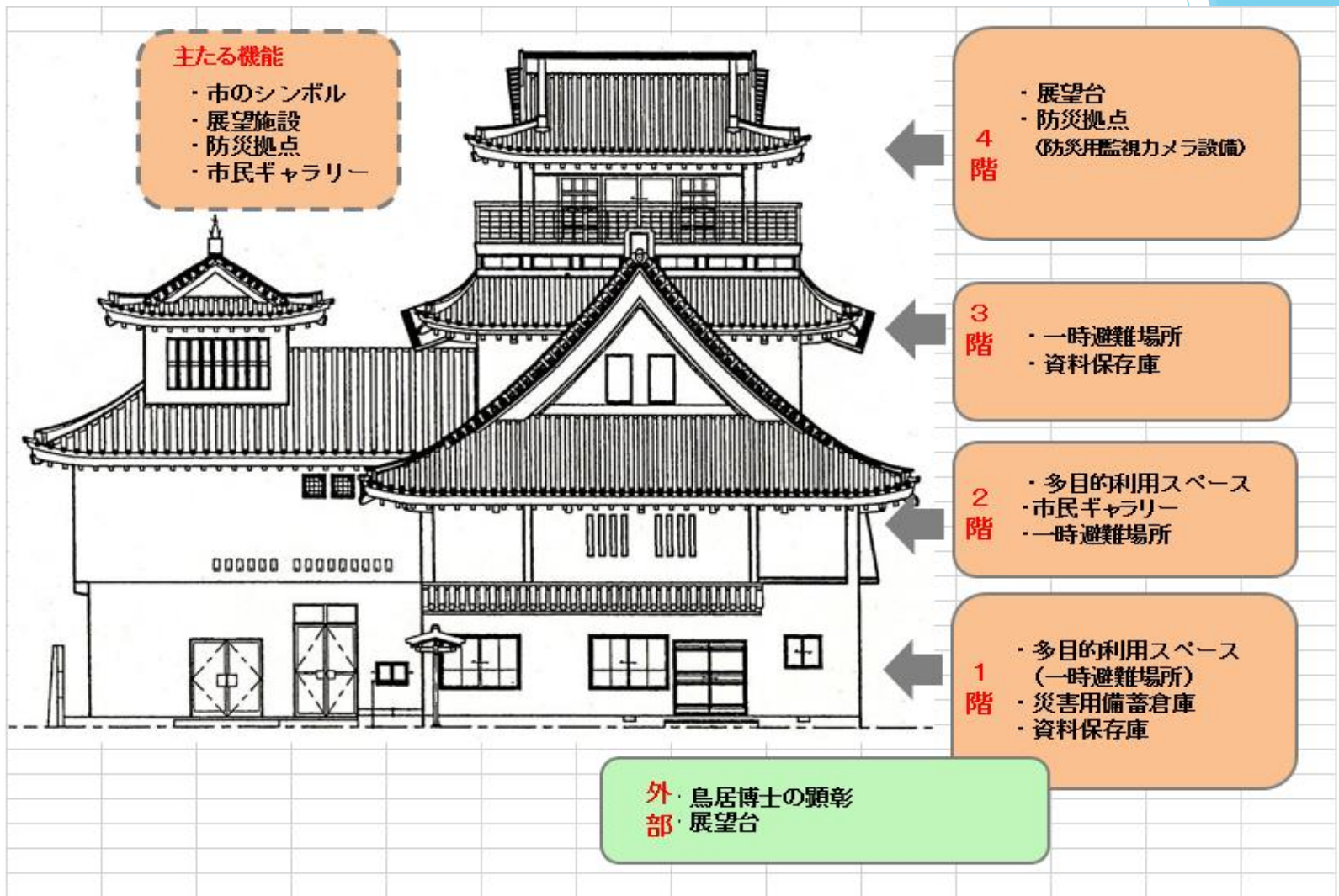


施設概要 仕様

- 三層天守閣様式鉄筋コンクリート造
- 四階建
- 延床面積 449.86㎡
- 高さ 17.5m



レイアウト（全体図）



施設概要 経緯 ①

- S 3 7 年 「鳥居龍蔵記念博物館」計画
(当初徳島市)
- S 3 9 年 鳴門市が誘致し、県が建設開始
- S 4 0 年 記念館完成・開館
(建設**36**百万円 寄附**23**百万円)
- H 1 9 年 「鳥居龍蔵記念博物館」移転決定
- H 2 1 年 県と市で現施設の協議を開始
- H 2 2 年 記念館閉館

施設概要 経緯 ②

- H 2 4 年 文化の森に収蔵品移転後、
県から市に施設移管
- H 2 5 年 耐震工事の実施設計発注
- H 2 6 年 実施設計完了
- H 2 7 年 用地買収 耐震工事着工
- H 2 8 年 竣工・名称募集
- H 2 8 年 3 月 リニューアルオープン・供用開始

耐震化事業費

総事業費 206,822千円

- ・内訳
 - 設計 7,208千円
 - 工事 190,291千円
 - 監理 4,007千円
 - 事務費 5,316千円

- ・財源 地方債（緊急防災・減債事業）
203,100千円
- 一般財源 3,722千円

利用目的 ①

■ 防災拠点

- ・ カメラ・スピーカーの設置
- ・ 災害時の指定避難場所
- ・ 防災倉庫

※周辺地域は、南海トラフ巨大地震発生で 8. 2mの津波襲来の想定

備蓄品



非常食



非常食



簡易トイレ・毛布



発電機

防災ボックス

- 鍵保管庫は、一定の強い揺れで、自動的に開くしくみ（建物外部に設置）
- 緊急時には誰でも開錠可能



利用目的 ②

■ 市のシンボル

- ・ ライトアップ
四国初のJリーグチーム
「徳島ヴォルティス」の試合日に
チームカラーの青でライトアップ
- ・ 展望台
- ・ 花見の名所



花見の時期



ライトアップ



展望台



利用目的 ③

■ 市民ギャラリー・会議室貸付

- ・ 市民は無料
- ・ 市民以外は 1日**3,000円**
空調利用は**1室1日300円**

※ 普段から市民に親しまれることにより、防災時に避難できる施設であることを知ってもらおう。



市民ギャラリー 壁面利用

思いがけない効果

■ 「コスプレ撮影」

- 市の思いがけない貸し出し効果
- 城郭風建築で、城や階段の雰囲気
が撮影に向いている
- 若い人が集まった



開館について

土・日・祝日

9:00～16:00

(年末年始は閉館)

※災害避難時は上記にかかわらず開館

来館者 28,470人

(H29. 10月末現在)

所感

- 津波時の避難場所として、山の上であり、展示ギャラリーとしての活用には課題あり
- 災害備蓄品（食料、毛布）は、100人分で少ない
- 発電機の備蓄は重要
- 一定の揺れで自動的に開く「防災ボックス」のしくみは、参考になった